

英語力の伸びがはっきり見える練習のひとつが、パラフレーズ(言い換え)です。本文の1文を、意味を変えずに別の英語で言う——The temple was built 300 years ago. を People built the temple 300 years ago. に、あるいは The temple is 300 years old. に。言い換えの引き出しの数が、そのまま表現力の広さです。

進め方

1. ①お手本を1つ見せる: 言い換えの3技法——語を替える(buy⇒get)・構文を替える(受け身⇒能動)・視点を替える(AがBに与える⇒BがAから受け取る)
2. ②本文から「言い換えやすい1文」を先生が3つ指定(受け身の文・比較の文・不定詞の文が狙い目)
3. ③個人で各文につき1つずつ言い換えを作る(10分・辞書OK)。「意味が同じなら正解は無限にある」と宣言
4. ④ペアで交換し、「意味が同じか」を相手が判定。ずれていたら、どこでずれたかを話し合う
5. ⑤クラスで言い換えコレクション——同じ原文から出た言い換えを黒板に並べると、1文の可能性が可視化される

この活動の急所

パラフレーズは、入試読解の技術でもあります。選択肢は本文の言い換えで作られる——本文の enjoy が選択肢では like に、important が necessary になる。日頃から「同じ意味・別の英語」を作っている生徒は、この対応を見抜くのが速い。表現の練習と読解の練習が、この活動では同じものです。

評価は「正しさ」より「意味の保存」を軸に。文法的に完璧でも意味がずれた言い換えより、少々ぎこちなくても意味を保った言い換えを高く評価してください——パラフレーズの本質は意味の運搬です。

本文活用術シリーズの中での位置

サマリー・ピラミッド(要約)の前段スキルです。1文が言い換えられない生徒に段落は要約できない——工房→ピラミッドの順で本文の「圧縮系」活動が積み上がります。